

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心豊に安心できる暮らし」をスタッフ一同共有して利用者様が安心して生活できるよう努力している	理念については玄関、ホールに掲示し、共有に努めている。パンフレット、運営推進会議の資料、毎月発行するお便り「あおい新聞」にも「こころ豊に安心できる暮らし」という理念を掲載し、取り組み姿勢として明確に示している。職員は理念の意味を良く理解し、良好なチームワークを発揮しており、利用者の思いに沿った支援に取り組んでいる。また、毎日、昼食後に職員ミーティングを行い、業務内容を共有・確認し合い支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まつりや消防訓練や地震体験車などがあると声掛け合って参加している。	自治会費を納め一員として活動している。日々の散歩では近隣の方と挨拶を交わし親しくお付き合いをさせて頂いている。地区のお祭り際には「獅子舞」が来訪し、利用者も喜ばれている。合わせて地域の「花フェスタ」にも見学に出掛けている。また、「楽器演奏」「歌」「踊り」等の地域のボランティアの来訪が定期的であり、利用者の楽しみの一つとなっている。中学生の職場体験も毎年あり、「傾聴」「ゲーム」等で交流の時を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症については研修や勉強会を受けている。入所希望の家族にはグループホームや認知症に対する話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時の問題になっていることをテーマに話し合っている。情報をもらって参考にしていく。	2ヶ月に1回、奇数月に、家族代表、地区民生児童委員、区長経験者、社会福祉協議会経験者、地域住民代表、第三者委員、消防署員、市民生部職員などの出席で開催している。近況方向や事業計画、「熱中症」「感染症」等の勉強会、意見交換等を行い運営の向上に活かしている。家族に対しては個人別お便りの中で運営推進会議の報告も合わせて行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険で調査に見えた時や、困っている事わからない事など連絡をとっている	月1回開かれる地域包括支援センター主催の勉強会には可能な職員が出席し、後日、内部で報告し徹底を図っている。合わせて市主催の地域ケア会議にも出席している。市民生部、地域包括支援センターとは様々な事柄について連携を取り運営に繋げている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い、利用者一人ひとりについて細かくお話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修、勉強会で職員に周知しているので困った時は相談したり、話し合っている。	玄関は安全確保、防犯上の理由で施錠している。身体拘束委員会を3ヶ月に1回開き意識を高め、拘束の無いケアに取り組んでいる。帰宅願望の強い利用者があるが職員が付き添いホームの周りを散歩することで納得していただいている。ベットからの転落が危惧される方がおり、家族と相談しつつベット柵をしないように工夫している。また、法人独自の見守り支援システムも準備し安全確保に取り組んでいる。	

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待も身体拘束と同様で研修、勉強会で学んでいるのでお互いに注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会で学んでいるので相談を受けたり必要性を感じたら話し合ったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所に説明している。改定時等にも説明しているが不安や疑問などあれば常に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族等の意見や要望に対応している。	殆どの利用者は自分で意思表示の出来る状況であり、きめ細かく問い合わせを受け止めるよう努めている。家族の来訪は週1回～月1回位であるが、来訪の際には利用者の状況を細かく報告している。家族会は年1回、10月に、殆どの家族が出席し行い、利用者と共に手作り料理を味わいながら懇談会を開き楽しい1日を過ごしている。月1回、ホーム便り「あおい新聞」を発行し、外出の様子やホームでの行事の様子をお知らせしている。合わせて管理者より個人別に毎月利用者の状況をお手紙でお知らせし家族からも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会を設けているので職員の希望や意見を出し合い代表者の解答をもらっている。	月1回、全職員出席の下職員会議を開催している。業務の連絡事項、各種勉強会、問題点等について話し合い、活発に意見を出し合い支援の向上に繋げている。人事考課制度があり目標に合わせて自己評価を行い、その後、管理者が評価を行い、3月と10月の年2回、管理者による個人面談が行われ全体評価に繋げている。職員に対して年3日間のリフレッシュ休暇が有り交代で取得し、鋭気を養っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方や給与など気になること困ったことなど管理者や会社の窓口などに相談窓口などに相談機関を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望があれば研修を受けてもらっている。包括主催の研修は希望で出席している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設の見学など訪問希望の方には説明できるようにしている。地域ケア会議の研修会では勉強会に参加し交流をはかっている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会議の中からその人の求めていることを見つけ出しよい関係ができるように努力している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は困っての入所なので家族の求めていることを聞きここの生活が安心できるよい関係が維持できるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方からの情報がないと支援までつながらないのでコミュニケーションを十分とり必要性を見極め納得した上で進めていくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることでできないこと介護が必要としているかなど一緒に考えることが大事です。本人から出てくる言葉を受け止め一番良い方法を考えていく。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回状態のお知らせで手紙を書いています。あおいに見えた時それについてお話させていただいています。ご家族が知らなかった事あおいで知らなかった事などが知ったりします。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に見えた方など再び訪れてもらえるようにお話しします。ドライブに出ると知っている所に行くと言明をして下さる利用者さんもあります。	友人や兄弟の来訪がありお茶をお出しし居室にて寛いで頂いている。俳句が趣味で投稿され楽しんでいる方がいる。年賀状は職員が手伝い家族に郵送し家族からも利用者へ年賀状が届いている。希望により職員同伴で慣れた店で買い物したり食事に出かけ、楽しんでいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ハーモニカができる方には入浴後などに一緒に歌いながら演奏してもらったり、お茶の先生をやっていた方もおりお茶を立ててもらい利用者さんがいただき「けっこうお手前でした」といって御礼を言っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了があってもその後相談があれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に介護するにあたり1人1人生活環境も違いがある。介護員がこうあるべきではなく利用者がどうしたいのかである。よりそう考え方が必要。	入浴時間、散髪、おやつ希望、外出希望等きめ細かく問い掛けを行い、表情も確認しつつ意向を汲み取り、それに沿えるよう取り組んでいる。遠慮がちな利用者もいるが場所を変え話をしたり散歩に誘い、気分を変え意向を汲み取るよう心掛けている。気づいた言動等はカーデックスの連絡事項に纏め、昼食後のミーティング等に確認し合い情報を共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	何かできること、好きなことなど今までで生活してきたことを引き出し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	動きや歩き方食べ具合など全身状態などいつもと違ったりするなど観察をしっかりとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1人1人受け持ちを設けて話し合いをもち情報を共有して介護計画を作成し取り組んでいる。	職員は1~2名の利用者を担当し、家族来訪時に希望を確認している。また、日々、サービス実施表を作成し、1ヶ月の短期目標に沿って実施し、1ヶ月のケアプラン評価記録も作成し、その結果を基にカンファレンスを開き、計画作成担当者がプランを作成している。基本6ヶ月ごとに見直しを行い、状態に変化がない時には1年で見直し、変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	午後の業務に入る前に朝の送付りと午後の話し合いをもち情報を共有し実践し介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マニュアルではなく本人の心身や体調に合わせて支援している。		

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の催し物に参加したり野菜を植えたりして楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族に主治医は選んでもらっている。緊急時で病院等希望されれば手配している。	入居時に家族の希望をお聞きしているが、現在、若干名の利用者を除いてホーム協力医の月1回の往診で対応している。管理者が看護師でもあり、日々の健康管理に合わせ医師との連携には万全を期している。歯科は必要に応じ協力歯科の往診で対応している。口腔ケアについては職員がきめ細かく行っている。その他、専門医への受診は家族対応で、家族との情報のやり取りは管理者に一本化されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職との連携をとって情報を共有し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師やケースワーカーと連携しその時の利用者の状態にあわせて行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所状態変化時どんな風に考えているかの確認とその後に状態悪化あれば話し合いをし相談を受けたり一緒に考えている。	重度化や終末期に対するホームの指針があり利用契約時に説明している。状態の変化に合わせ主治医同席の上話し合いを行いターミナルケアの同意書を頂き看取り支援に取り組んでいる。直近の2年間に3名の方の看取りを行い、家族の希望に合わせ職員も同じ方向を向き支援に取り組み、家族からも感謝の言葉を頂き全員でお見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の講習をうけている。看護師と連携をとったりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は避難訓練をしている。職員会議時には自家発電の取り扱いを講習している。	年2回春と秋に近隣住民の協力も頂き防災訓練を行い、秋には消防署員参加の下実施している。春は避難通報訓練を行い1階、2階をそれぞれ行き来しての避難訓練を行った。秋には消防署員参加で火災想定消火訓練と利用者全員玄関まで移動しての避難訓練を実施している。また、地震体験車が来訪し地震体験訓練も行っている。備蓄として「おかゆ」「ラーメン」「缶詰め」「水」「カセットコンロ」「発電機」等が準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活暦やコミュニケーションが大切と考える。会話の中で自然に本人の思いが聞けるようにしている。	言葉遣いには特に気配りし、地域の「方言」を大事にし、親しく雰囲気を作るように心掛けている。また、入浴時のドアは必ず閉めるよう徹底を図り、居室でのプライバシーにも配慮しドアの開閉に合わせ「のれん」を下げています。利用者への声掛けは親しみを込め名前に「さん」付けでお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のコミュニケーションが大切と考える。会話の中で自然に本人の思いが聞けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の状態や気分などを考えながら散歩やドライブ等で出かけたり中では歌を歌ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	くしを手渡すと髪を整えたり髭剃りをしたりと自然に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家ではこんなふうにしていたなど作り方を話しながら食事した後はごちそう様と言ってもらえます。	自力で摂取できる方が大半で、全介助の方が数名、食形態はキザミ等、様々な状況となっている。献立は調理スタッフ3名が交替で1ヶ月分の献立を考え調理している。毎月1日は「おはぎの日」と決め、利用者も楽しみにしている。誕生会にはお寿司等の好きな物をお出しし、おやつにはケーキを手作りし楽しんでいる。また、正月、クリスマス、お盆等には季節に合わせた行事食をお出ししている。更に、少人数に分かれレストランでの外食にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方が2名インシュリンもしていません。悪化することもなくバランスもよいと考えます1日2回お茶の時間があり食事水分もしっかり摂れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ハブラシやうがいは1人でもできる利用者は洗面所で行っている。介助が必要な利用者にはハブラシや口腔ケア用のティッシュで行っている。		

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの希望があれば座ってもらっている。夜間ポータブルトイレを用意したらそでできるようになりました。	自らできる方と全介助の方がそれぞれ三分の一強、一部介助の方が五分の一強という状況である。排尿については起床時、食前、食後、就寝前にお誘いしトイレ誘導を行っている。排便については排泄表を用い「牛乳」「乳酸飲料」「子供用ミルク」等を使い排便促進に努めている。人前で失敗することもあるが、わからないようにトイレにお連れしたりシャワーで対応している。また、バットの大きさを工夫したり市から支給される「オムツ券」を利用し介護用品の費用削減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分繊維物を摂ってもらったり運動をしてもらっている。どうしても排便がなければ下剤を処方されている。排便の確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、順番など希望を聞いている。	全利用者が何らかの介助を必要としている状況である。入浴拒否の利用者もなく、基本的に週2回の入浴を行っている。失禁気味でお風呂好きな利用者がおられ週4回入浴を楽しまれている。そのような中、1階の特殊浴槽利用の方が三分の二、2階の普通浴槽利用の方が三分の一とそれぞれに合わせ使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときなどはホールに来てもらい職員と話したり麦茶などを飲みながらゆったりしてもらい眠りたくなったら部屋に戻ってもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤で個々に入れてもらい食事のときにもう1度確認し、大事な薬などは口の中に入れて飲み込まれたことを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までできたことができなくなっていることが多いが外出、ドライブ、買物は喜ばれるので計画して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があればドライブや散歩は日常的に行っている。家族は休みを利用し本人の好きな所へ連れて行かれている。	外出時、自力歩行の方が半数弱であとの方は車イス使用となっている。天気の良い日には毎日のようにホームの周りを散歩している。毎月の当番が計画を立て、季節に合わせ少人数に分かれ数日にわたり全利用者がお花見に出掛けたり、レストランで食事したり、蕎麦を食べるに出掛けたりし、気分転換できるように取り組んでいる。	

グループホームあおい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーや飲食店にて自分の好みの物を自分で払って買ったり食べたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されると支援している。毎年年賀状は職員の支援を受けて書き投函はこちらでしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けをしたり、ソファに座ってテレビを見たり話をしたりしている。	陽当たりが良くこじんまりとしたリビングには1日のスケジュールの掲示と信濃の国の歌詞、正面には大型テレビが設置され寛ぎのスペースを演出している。歌好きな利用者も多く、食事中には演歌がBGMとして流れ、落ち着いた感じであった。廊下の壁には外出時や行事の際のスナップ写真、また、ぬり絵等の作品が多く飾られ、活動の様子を見て取ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者と共にと考えているので話したり作業をしたければ一緒にいて1人になりたいときは自室に戻っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までは看取りのときに付き添いで1~2日ほどになりますが心置きなく見送れるお手伝いをしています。	各居室には大きなクローゼットが設置され殆どの物が収納され、居室内は綺麗に整頓されている。壁にはぬり絵等の作品や誕生日に贈られたお祝いカード、家族の写真等が飾られ、自分の部屋として自由に生活されているみことが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分に観察をして「できること」「わかること」は大事にしている。今ある機能をできるだけ維持できるように努力している。毎朝ラジオ体操、台の昇り降りを希望する回数を行う。今できる機能を落とさないようにしている。		